

コスト管理 編

問題点

「物品面」「人の面」での

経費削減

解決策

院長による実態把握が肝

河合医療福祉法務事務所代表 河合吾郎

相見積もりをとり、年1回は
納入価格と業者を見直す

当事務所の定期関与先の患者数
状況を見ると、「新型コロナの影響による受診控えて患者数が減ったままの診療所」は34%に対し、「いったん影響を受けたが早い段階で持ち直した診療所」は62%と二極化する中、特に収入が落ちた診療所は、コスト削減が喫緊の課題



河合 吾郎 ●医療経営者
経社士。情報経済学
士。行政書士。個人
士。中央大学卒業、
2001年社会福祉
法人聖隷福祉事業
団 聖隷浜松病院
職。医事課・医療
室・経理課などを
2011年に独立開業。

図 在庫定数・納入価管理表(例)

物品名	在庫定数	2020年 使用数	2020年 納入価	2021年 納入価	コスト削減 効果
消耗品A	10	140	1000円	985円	2100円
消耗品B	15	170	780円	775円	850円
文房具C	5	50	200円	200円	0円
文房具D	10	100	250円	248円	200円

題になっていきます。診療報酬改定
の大幅なプラスは見込めないな
か、どの診療所も経営面において
コスト削減が重要です。

コロナ禍では、感染対策の消毒
液やアルコール板など今まで必要の
なかつたコストが上乗せになり、
スタッフの

業務面でも、来院者の
体温測定
や、感染が
疑われる患
者への特別
な対応など、コスト
に見えない
負担が増え
ています。
しかも、
新型コロナ
はまだ収ま
らず、その

対応に必要な経費がかかり続けま
す。まずは、診療所の院長自ら、
自院のコスト面の現状を把握する
ことが肝要だと私はお伝えしてい
ます。

「物品面」「人の面」と2つの視点
が重要です。物品面では、慣れた
業者からの購入が続いているパ
ターンが多いと思います。年に1
回は「在庫定数・納入価管理表」

(例：図表)を作成し、物品ごと
に相見積もりを取って納入価格、
納入業者を見直すべきです。定数
管理をしっかりと行い、過剰在庫を
持たないことも大事で、最低でも
年に1回は棚卸しすることをおす
めします。

ICT活用とオンライン 診療の検討機会に

一方、人の面に関しては、適正
な人員配置で業務ができていま
か、無駄な業務がないか、さらに、
どの業務にどれくらいの業務負荷
がかかり、それに伴う人件費がど
れくらいかかっているのか、業務
改善により人の配置や業務を減ら
すことで人件費削減につながるか
どうかを院長がしっかりと検討す
ることが必須です。

予約や問診、会計など自動化が
進んでいますから、業務フローの
見直しと職員配置の検討は常態的
に行いましょう。人材難の今、1
人に対する待遇はなるべく手厚く
して職員の定着を図っておきたい
半面、人件費ばかりが大きくなっ
ても困るので、しっかりと業務フ
ローを見直してバランスの良い配
置を考えることが重要です。

業務フローを見直しでは、ICT
への投資をしっかりと考えていか
なければいけません。「導入して
業務は楽になりました」だけでは、
診療所経営としては不十分で、そ
のメリットをスタッフの業務軽減、
人件費の削減につなげる意識
が重要です。

オンライン診療についても、今
はまだ始めていない診療所も多い
ですが、検討される良い機会だと
思います。診療報酬や設備投資、
患者への案内といった課題もあ
り、進めづらい部分もありますが、
4月の診療報酬改定でも議論され
ており、将来的には大きなポイン
トになっていくと考えています。
ですから、「時代に乗っていく」
という意味でも少しずつ進めてお
くことをおすすめします。